名作『エディット・ピアフ～愛の讃歌～』でピアフの歌声を担当したシンガー

ジル・エグロに聞く ピアフの魅力

Edith Piaf

07年に公開された映画『エディット・ピアフ～愛の讃歌～』。フランスの国民的シャンソン歌手〝エディット・ピアフ〟の伝記作品として世界的に大ヒットし、アカデミー賞（主演女優賞）を獲得しました。その名作の中で、ピアフの波乱の生涯を彩る歌声を担当しているのがシンガーのジル・エグロさん。現在もピアフのナンバーをカヴァーする彼女にその魅力を伺いました。

エディット・ピアフの人生は何かと悲劇的でした。しかし、彼女は若い頃からそれを乗り越えていきました。ですからピアフの代表的な歌は、フランス革命から生まれたラ・マルセイエーズ（フランス国歌）のように、フランス人らしさを残したものとして世界的に知られるものとなりました。今や彼女の歌はフランスの文化的国宝であり、世界遺産だと私は感じています。

映画「エディット・ピアフ～愛の讃歌～」で、私は彼女の歌声を担当することになりました。その頃からピアフと繋がりのあった方々から、「あなたの歌声は心の琴線にふれるね」とよくお声をかけていただいています。彼女が歌う時に発していた感情を、私の歌声の中にも感じとってくださっているのだと思います。

しかし、これはあくまで自然発生的な出来事であり、私が無理をして表現しているものではありません。おそらく、私がピアフについて本をたくさん読んだり、ピアフと繋がりのあった人々と話したりと、とても長い時間をかけて彼女に寄り添って来たからではないかと思います。

私はピアフ本人ではありませんが、彼女のステージ上での立ち振る舞いや感覚を深く理解しているつもりですし、実際に彼女を感じる瞬間もあります。私の感覚とピアフの感覚は似通ったものであると信じています。

私にとってピアフの一番の魅力は、天才的な音楽性はもちろんですが、なんといっても歌に対する真心。ですから、私がステージに上がる際の一番大きな仕事は、正真正銘の真心に満ちた感情のパレットを観客の皆さんに届けることです。悲しみ、希望、運命、強さと弱さ―。それは声だけでなく、彼女の人格そのものを伝えることだと思っています。

2018年、再び日本でエディット・ピアフを歌えることをとても幸せに感じています。私のお気に入りは「群衆」。私の人生の中で初めて耳にしたピアフの曲です。制御不能で危険な愛について歌っていて、多くの人々に呼応するかのような曲です。この曲を歌うときはいつも胸が高鳴ります。ぜひ佐世保のみなさんにも、愛や胸の高鳴りを感じ取っていただけたら嬉しいです。

ジル・エグロ（シンガー）／出身は南フランスのカンヌ。若い頃から声楽を学び、フランス歌曲専門の歌い手となった。その後、フランスの国内の有名なテレビ番組への出演をきっかけにコンサート・シンガーとしての評価を高めていき、舞台・テレビ等で活躍。そして、2006年、映画『エディット・ピアフ～愛の讃歌～』でピアフの歌声を担当する歌手にキャスティングされ、世界的な評価を受けた。ピアフ没後50年にはカヴァーアルバム「エディット」をリリースし、大きな話題を呼んだ。

その歌声はピアフの再来。フランスを象徴するシャンソン歌手のナンバーが響く！

エディット・ピアフ没後55周年トリビュートコンサート
ジル・エグロ ～バラ色の人生～

アカデミー賞を受賞した映画『エディット・ピアフ～愛の讃歌～』で、ピアフの歌声を担当したジル・エグロがアルカスSASEBOに登場。没後55年となる偉大なシャンソン歌手の生涯を巡るコンサートです。

5月26日(土) 開場13:30／開演14:00 ■中ホール
【全席指定】一般／4,000円　25才以下／2,000円

〈出演〉ジル・エグロ（ヴォーカル）、Gino Samyn（ピアノ）、かとうかなこ（アコーディオン）

〈予定曲目〉バラ色の人生／La vie en Rose（作詞：E・ピアフ、作曲：ルイギ）
愛の賛歌／Hymne a l'amour（作詞：E・ピアフ、作曲：M・モノー）
群衆／La Foule（作詞：E・ディセオ、作曲：A・カブラル）　ほか

アルカスクラブ先行発売
2月24日(土)
一般プレイガイド発売 3月3日(土)